

観測部月報

Monthly Report, Observing Section, O.A.A.

★

東亞天文協會

★流星課報告 METEORS (120) 課長 小椋孝二郎 K. Komaki, President

十二月に活動する流星群は下の通りである。December Meteors:

期	間	輻 射 點		附 近 の 星		性 狀	
上	旬	α	156°	δ	+ 37°	大熊 μ UMa	速
上	一 中 旬		110		+ 33	双子 θ Gem	顯著, 短, 輻射點移動
上	一 中 旬		119		+ 29	双子 β Gem	稍速
21日	— 23日		225		+ 75	小熊 β UMi	

この中、上旬の大熊座 μ 流星群は、十一月末から繼續するもので、時として豊富な出現を見せることもある。双子 θ 群は、12—14 日頃に、最も顯著で、年々、夏のペルセウス流星群に匹敵する程の出現を見せる。ハレヴィドのホイブル氏によれば、週期1.8年の極短週期の軌道を持つことが、寫眞觀測によつて決定された。本年は月の關係で觀測は夜半前に好都合である。22—24時を協定觀測時間として、全國的に共同觀測する事にしたい。

同じ頃、双子座 β 附近から放射する流星群があるが、あまり顯著ではない。

下旬のタツトル彗星に關聯する小熊座 β 流星群は恐らく好出現を見せることはないだらう。月の邪魔は全く無い。

×

×

×

八月以來新しく流星課に入課された方は相當に多い。未だ御手並を拜見してゐないが、熱心な方もある様である。月の邪魔が入るので、1年のすべての流星群に見参するのは3ヶ年かゝる。流星の觀測者は、變星と同様、多ければ多い程よい。充分な經驗をつまれた優秀な觀測者が輩出して、立派な成績を挙げたいものと念じてゐる。New and enthusiastic observers are welcome.

來月號には1941年度前半の觀測結果を詳報するつもりである。(1941, 10, 5)

★黃道光課 ZODIACAL LIGHTS

去九月21日早曉天の東天に見えた黃道光の觀測報告を東京の富田弘一郎氏と犬山の山田達雄氏より受取つた。(第372頁を見られよ。但し、山田氏のは遅れて編輯に間に合はず)又、戦線にある本田實氏より十月1日, 2日, 3日, 15日, 20日, 21日, 22日の黃道光の報告を受取つた。

次いで又、醍醐氏より十月19日、20日、21日の對日照の報告と、富田弘一郎氏より十月19日と24日の黃道光の觀測報告とを受領した。雨雲は去つて秋晴れの良い天氣がつづく、年末には東天も西天も黃道光は立派であらう。遊星の妨害も今年年中は無い模様だから。(山本)

★遊星面課報告 PLANETS

課長 伊達英太郎 E. Date, President.

九月に入つても天候は香ばしくなく、上旬は少し晴れ間を見たが中旬から又も曇雨天の連続となつてしまつた。火星は日1日對衝への旅を早めて来るのに氣が氣でなかつたが、どうやら十月に入つて秋晴が續く様になつて來てホット一息と云ふ所である。併し、今後 Seeing は益々悪化の一路をたどるから、火星表面の如きデリケートな觀測に適さなくなつて來る事は頗る遺憾な事で、こ意味でも六～七月の悪天候は残念だつた。

其後の報告は東京市深川區の保積善太郎氏から23枚(合計26枚)受取つたののみで、非常に報告が少い。

表面の狀況は、十月に入つて南極冠は極めて小さく縮少し、Discの上縁に小さい楕圓形を呈し、北極冠は、像の下縁一帯に廣く擴がつてゐるものゝ如くである。地球に最も接近した十月3日は幸ひ一夜のみ晴天に恵まれ、恰度ソリス湖附近が見えて居たが、ソリス湖及チトニウス湖が非常に淡いの面に喰つた。大阪電氣科學館25厘カセグレンに依る渡邊恒夫氏の觀測では、火星の南半球が良く見えた結果、ソリス湖の南方クリソケラス地方が良く見られ、ポンチカ深海が非常に黒く見られてゐる。ソリス湖は、カリドン運河の濃化に依つて、勾玉形に見られ、1926年度の對衝の時に良く似た形狀を呈してゐる。アガソデモン運河及メラス湖が非常に濃く際立つて見えた。大シルチスはやはり濃く、保積氏のスケッチに依ると、九月20日にはシルチスの東側(火星面での)に2つの濃い斑點が見られてゐる。エリシウム地方も今年は判然としてゐる様で、16厘機にも良く見えてゐる。1939年に淡く消失した如く見られたバンドーラ海峽は、今年も相變らず淡く、殆ど見えない位である。

觀測の少い故でもあるが今年は未だ白雲出現は認められてゐない。(X-15)

★彗星課 COMETS

1941e 前月には去る八月19日にデルポルト氏が發見したものとして報告したが、これはやはり南阿のデュトア氏(7月18日)及びロシヤのネウイミン氏(7月25日)の發見をデルポルト氏が確認したものらしい。外國での觀測報告は最近のものは入らないが、東京での觀測によると“みづがめ”座を殆んど赤道に平行に東進してをり、十月月上旬には既に光度14^mまで減光してゐる。(進)

太陽黑點相對數報告 (1941年九月) Sun-spot Relative Nos., September 1941.

觀測者 Obs. (觀測地)	蔡章 獻 (臺北市)	坂上 務 (鹿兒島市)	前橋 榮太郎 (大阪市)	竹內 潤 (大阪市)	寺崎 明 (大阪市)	廣瀨 辨三 (大阪市)	水邊 成麿 (滋賀縣)	金田 伊三吉 (石川縣)	大石 辰次 (靜岡縣)	岩城 馨 (靜岡縣)	富田 弘一郎 (東京市)	高杉 重春 (東京市)	保積 善太郎 (東京市)	山田 勇次 (東京市)	高橋 利繁 (北海道)
	Ss	Su	E.M.	Tu	A.T.	B.H.	Kb	Kd	Oi	K.I.	Tm	Ti	Hz	Yy	Tt
口徑 mm	55	42	27	32	18	38	75	55	55	30	40	32	76	75	33
倍率 ×	64	64	60	50	75	50	60	64	64	50	32	64	65	40	35
方法	P	P	D	D	D	D	D	DP	D	D	DP	DP	D	D	D
1	77	25	13	33	13	M	53	48	C	24	42	C	56	C	M
2	89	M	39	40	30	M	M	51	37	37	56	49	65	R	59
3	71	M	38	33	40	42	113	64	50	58	56	50	62	47	64
4	65	M	39	47	38	67	70	52	48	64	67	38	60	68	C
5	89	M	41	35	49	41	50	51	32	48	R	R	27	C	R
6	57	46	C	18	C	53	39	53	43	62	61	28	54	52	R
7	62	C	31	20	33	40	41	43	27	61	42	27	38	42	M
8	60	C	53	18	60	44	40	45	30	61	M	27	C	C	32
9	R	C	42	18	43	37	44	41	R	58	45	29	43	C	45
10	49	R	R		望	C	R	R	C	R	R	R	R	C	M
11	51	C	R		遠鏡	R	R	R	R	C	C	R	R	R	R
12	73	54	32		の	R	R	R	40	R	30	C	47	M	R
13	51	M	R		修理	R	R	M	R	C	62	31	41	62	C
14	R	M	R		の	R	R	40	R	54	R	R	41	74	102
15	R	M	R		理	R	R	69	R	C	R	R	R	C	49
16	C	M	R		中	R	R	86	R	R	R	R	R	C	55
17	104	C	61		64	57	R	101	R	R	R	R	R	R	63
18	C	M	R		R	C	M	115	C	C	R	R	R	R	R
19	103	M	70		72	C	M	95	C	C	R	C	C	R	C
20	M	M	67	74	63	79	110	85	C	143	67	C	124	86	M
21	M	M	50		52	C	71	86	36	C	71	M	123	M	58
22	R	M	43		45	C	62	75	C	129	C	C	90	C	50
23	R	M	M	15	C	C	85	68	C	C	42	50	81	C	M
24	R	M	R		R	C	R	R	C	R	R	R	R	M	M
25	R	M	R		R	C	R	52	R	60	37	R	R	R	R
26	48	M	22	22	22	57	35	58	C	R	R	C	C	C	C
27	R	M	13	15	12	33	52	33	48	58	R	22	53	35	25
28	R	C	C		C	C	R	R	C	R	R	C	C	C	R
29	40	C	R		R	M	R	R	C	R	R	11	55	C	C
30	36	R	R		R	M	R	R	R	R	R	R	R	C	R
日數 Days	17	3	16	13	15	11	16	21	11	14	13	12	17	7	10
平均 Mean	66	42	41	30	42	50	57	65	41	66	50	34	65	61	50

注意 N.B.: P=投影 Projection; D=直視 Direct vision; C=曇 Cloud;
R=雨 Rain; S=雪 Snow; M=缺測 Missed.